

## 5 多文化共生社会の実現に向けた一歩

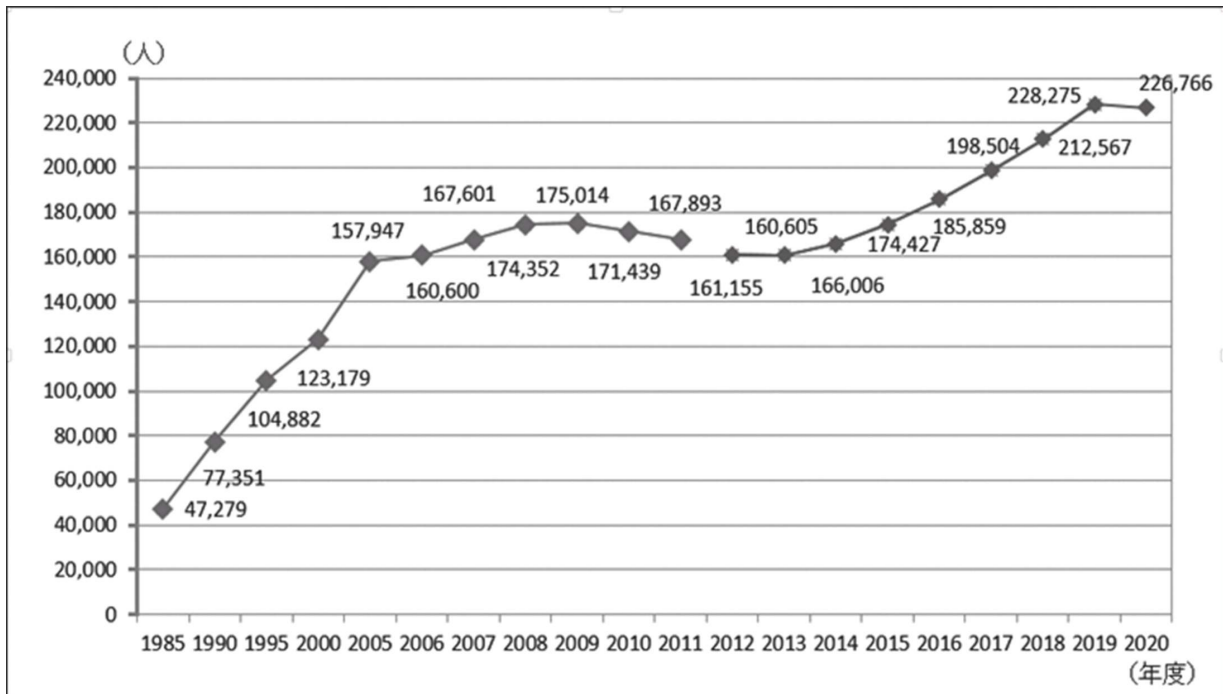
神奈川県ではたくさんの外国人が生活をしています。私たちは「多文化共生社会」の実現を掲げる神奈川県の一員として、一人ひとりが多様な文化や民族の違いを理解し、認め合うことが重要です。共生社会の実現に向けて、私たち一人ひとりができることを考えていきましょう。

### ワーク 1

(1) 表1から読み取れることや気がついたことをグループで話し合い、その内容をまとめましょう。



表1 県内の外国人数の推移



「県内の外国人数の調査結果について」(神奈川県国際文化観光局国際課)より

※ 住民基本台帳上の外国人数は、2011年度までとそれ以降では制度上の対象が一部異なり、単純に比較できません。

(2) 表2から読み取れることや気がついたことをグループで話し合い、その内容をまとめましょう。

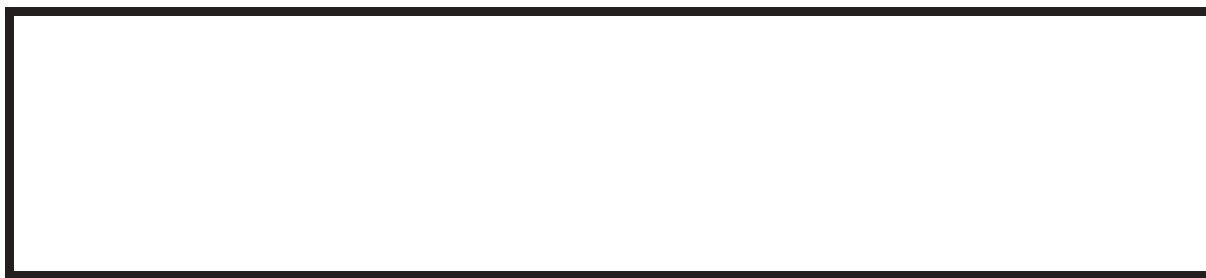
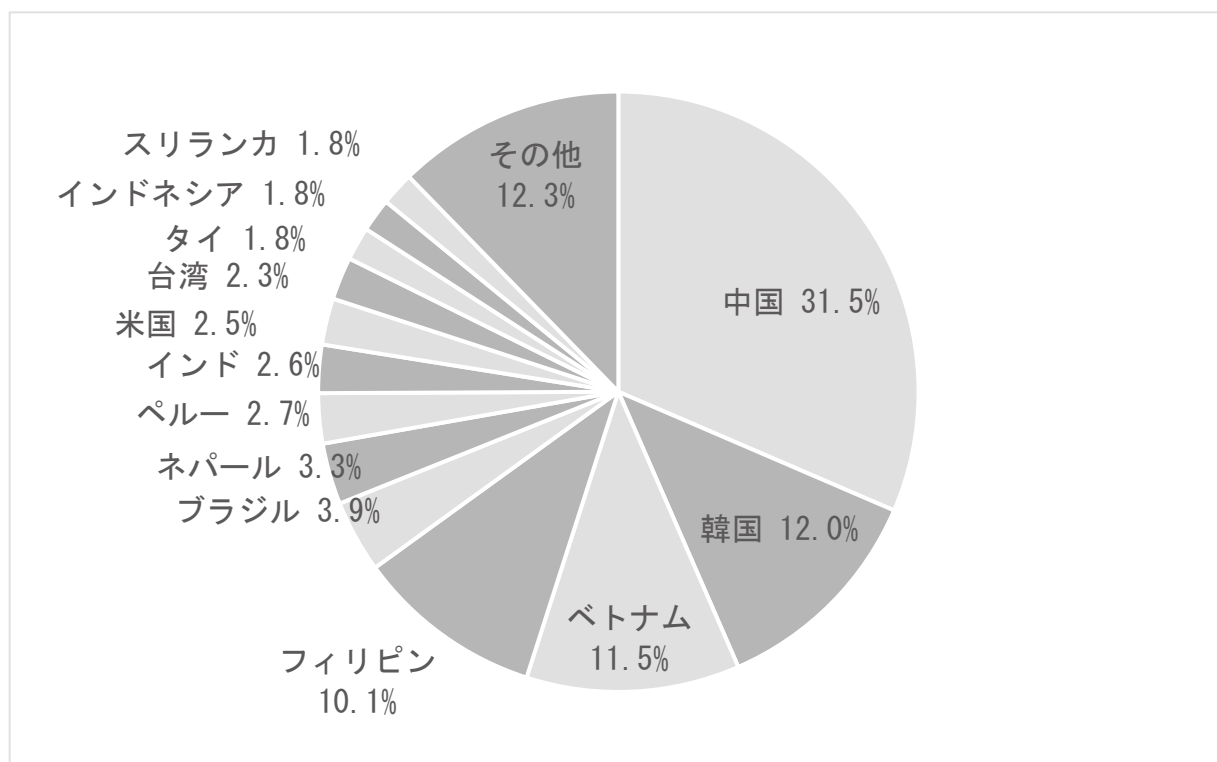


表2 令和2年度主要国籍（出身地）別外国人数の割合



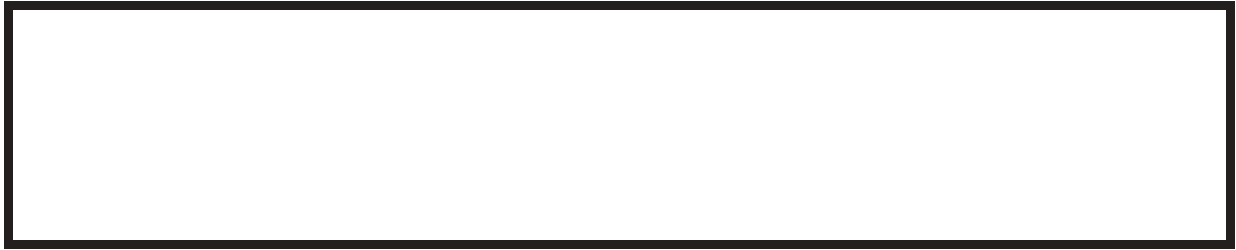
「県内の外国人数の調査結果について」（神奈川県国際文化観光局国際課）より

(3) 日本で生活する外国人がどのようなことに困っているかを考えましょう。



## ワーク 2

(1) 次の3種類の案内から感じたことや気がついたことをまとめましょう。



「多言語支援センターかながわ」の案内（神奈川県国際文化観光局国際課）

### 日本語

外国籍県民や来県外国人が安心・安全に過ごすことができる環境をつくり、多文化共生社会を実現するため、「多言語支援センターかながわ」を設置し、多言語による情報支援を行います。

### ルビ付き

外国籍県民や来県外国人が安心・安全に過ごすことができる環境をつくり、多文化共生社会を実現するため、「多言語支援センターかながわ」を設置し、多言語による情報支援を行います。

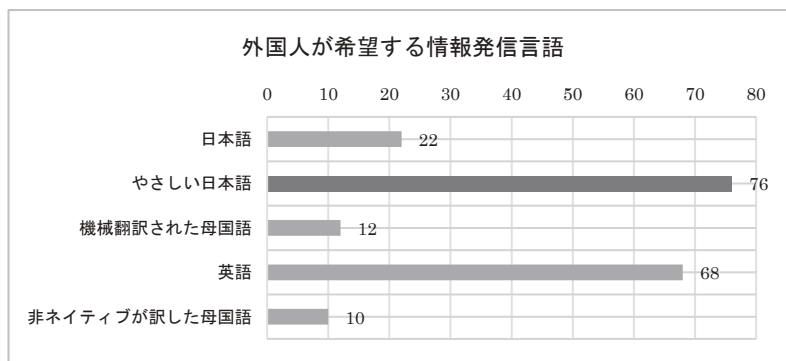
### やさしい日本語

外国人（がいこくじん）が安心（あんしん）・安全（あんぜん）に生活（せいかつ）するために、いろいろなことばで情報（じょうほう）をおしえます。

(2) 「やさしい日本語」を考える

日本で生活する外国人に対する情報提供の手段として「やさしい日本語」があります。「やさしい日本語」は、難しい言葉の言い換えなど、相手のことを考えたわかりやすい日本語のことです。「やさしい日本語」での情報発信を求める外国人も多く（表1）、私たちにとっても取り組みやすい支援の1つです。

表3 外国人が希望する情報発信言語



出典：在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン（出入国在留管理庁、文化庁）をもとに作成

○ 次の言葉をやさしい日本語に書き換えてみましょう。

- ① ご出身はどちらですか。 → ( )
- ② 無料で借りられます。 → ( )
- ③ こちらに記入してください。 → ( )
- ④ ご利用はお控えください。 → ( )
- ⑤ 三者面談をします。 → ( )
- ⑥ 在留カード以外はいりません。 → ( )
- ⑦ 直ちに避難してください。 → ( )
- ⑧ 医療従事者が優先です。 → ( )

(3) (1)、(2) の活動もふまえた上で「やさしい日本語」を作るためのポイントを考えましょう。

# 解説 多文化共生社会の実現に向けた一歩

## 1 ねらい

世界的にグローバル化が叫ばれて久しい昨今、神奈川県における外国籍県民の人口は増加の一途をたどる。

彼らが日本に来た背景は多岐にわたり、一様に語ることはできない。しかし、同じ神奈川県民としてともに生活していくことは、すべての人が幸せに生きていくための社会参画における当然の流れになっていくだろう。言わばそのスタンダードに生きていく子どもたちにとり、意識を培うことがよりよい社会を担う人材になるための「基本」であり、それを支援することもまた「基本」となることが大変重要である。

現状を大観し、すべての人がその当事者であると認識することが、多文化共生社会の実現に向けた第一歩となるのではないだろうか。

## 2 進め方

展開例（50分 3～4人のグループを作る）

学習活動	指導上の留意点
<b>1 ワーク1</b> (25分) ① (1)、(2)について、表から読み取れることを話し合う。 ② (3)について、①の活動をふまえた上で外国人の困りごとについて考え、グループ内で共有する。	○ それぞれの表から読み取れることを絡めて、外国人の困りごとについて考えるように促す。 ○ 外国人の立場で想像するように促す。 ○ グループで共有した内容も含めてワークシートをまとめさせる。
<b>2 ワーク2</b> (25分) ① (1)、(2)について各自で取り組む。 ② 「やさしい日本語」の概要について理解する。 ③ (3)について、(2)の活動をふまえた上で「やさしい日本語」の作り方について考える。	○ 相手の母語が分からなくても、コミュニケーションを取る方法があることの理解を促す。 ○ ワークに取り組みながら、「やさしい日本語」の特徴について考えるよう促す。 ○ 「やさしい日本語」の基礎的なポイントについて丁寧に説明する。

## 3 解説

### ワーク 1 について

#### (1) 神奈川県内の外国人数の推移

神奈川県の大留外国人数は全都道府県の中かで第 4 位である。(令和 3 年現在) 令和 3 年 6 月 28 日記者発表資料によると令和 3 年 1 月 1 日現在の外国籍県民 226,766 人であり、県民(9,239,411 人)の約 41 人に 1 人が外国籍県民ということになる。

日常生活においても外国人や外国文化にふれる機会がたくさんある。そういった実感もふまえて、「多文化共生」が社会におけるスタンダードになっていくであろうことについて、理解を促す。

#### (2) 主要国籍(出身地)別外国人数の割合

「外国人」という言葉だけでは括れないことの理解を促す。彼らがつルーツや背景は多岐に渡り、それによって困難に感じていることや求める支援も変わることになる。

#### (3) 外国人は何に困っているだろうか

(1)、(2)をふまえて、外国人の日常生活について想像させたい。私たちにとっては些細なことでも、外国人にとっては、文化的な理由や宗教的な理由で配慮が必要となることもある。また、大留割合の低い国では同じルーツをまつ仲間などを作ることが難しく、必要な情報が得られなかったり、困ったときに相談する相手がいなかったりすることも考えられる。

### ワーク 2 について

「やさしい日本語」の研究は、阪神淡路大震災から始まった。阪神淡路大震災において、兵庫県の被災地の死者等の人的被害を日本人と外国人で比べてみると、明らかに外国人の方が高い割合で被害を受けていることがわかる。この現実が「やさしい日本語」研究の契機となったのである。

災害だけでなく、日常の中にある困難はできる限り早く解決したいという思いは何人も同じである。もちろん外国語で相談に乗ることや情報提供をすることも必要な支援であるが、必ずしも必要な人材や環境が整っているわけではない。その中で誰もが挑戦できる支援として「やさしい日本語」は重要な役割を果たすことを理解させたい。また、日本語での支援であることから生徒の積極的な挑戦も促したい。

### (1) 「やさしい日本語」の実際

実際に使われている「やさしい日本語」から、どのように伝えればわかりやすいかを考える。人によって「読む・書く・話す・聞く」の力に差があることから、ルビの重要性について触れたい。

### (2) 「やさしい日本語」を考える

「やさしい日本語」の作り方については(3)のワークで説明する。ここでは外国人の立場を想像することを重視する。また、下記は模範として示し、多様な「やさしい日本語」を期待したい。

- ① 「あなたの<sup>くに</sup>国はどこですか。」 「どこの<sup>くに</sup>国から<sup>き</sup>来ましたか。」
- ② 「<sup>か</sup>借りられます。<sup>かね</sup>お金はいりません。」
- ③ 「ここに<sup>か</sup>書いてください。」 「この<sup>かみ</sup>紙に<sup>か</sup>書きます。」
- ④ 「<sup>つか</sup>使わないでください。」 「<sup>つか</sup>使うのはだめです。」
- ⑤ 「<sup>にん</sup>3人で<sup>はな</sup>話します。」 「あなたと<sup>かあ</sup>お母さん(お父さん)と<sup>わたし</sup>私で<sup>はなし</sup>話をします。」
- ⑥ 「<sup>ざいりゅう</sup>在留カードをもってきてください。」
- ⑦ 「<sup>に</sup>すぐに<sup>に</sup>逃げてください。」
- ⑧ 「<sup>びょういん</sup>病院で<sup>はたら</sup>働いている<sup>ひと</sup>人が<sup>さき</sup>先です。」

### (3) 「やさしい日本語」の作り方

(1)、(2)の活動をふまえて「やさしい日本語」の作り方について考える。下記の資料を参考に「やさしい日本語」の作り方について説明する。この活動のあとに改めて(1)、(2)について考えを促してもよい。

#### ○ 「はさみの法則」

「はっきりと言う」「さいごまで言う」「みじかく言う」

#### ○ 「です、ます」を使う。

文の切れ目がはっきりする。

○難しい言葉を避け、簡単な語彙を用いる。

例：早朝→朝の早い時間、記載→書いてあります、倒壊→壊れた

○漢字をたくさん使わない。漢字にはルビを振る。

○曖昧な表現はしない。

「たぶん」、「おそらく」などの断定を避ける表現を用いると、伝わりづらくなります。

「やさしい日本語」の作り方については、あくまで本ワークは導入と位置付ける。より詳しい内容について『やさしい日本語』でつながるコミュニケーション・シート（神奈川県立国際言語文化アカデミア）などの資料を用いた授業につなげていきたい。

### <引用文献>

- ・「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」 出入国在留管理庁・文化庁
- ・「県内の外国人数の調査結果について」 神奈川県国際文化観光局国際課
- ・「多言語支援センターかながわ」 神奈川県国際文化観光局国際課

### <参考資料>

- ・『多文化共生社会』の現状と可能性 阪神大震災と外国人  
外国人地震情報センター 編 明石書店 平成8年1月
- ・「地域活動・多文化共生 やさしい日本語」 東京都生活文化局 ウェブサイト
- ・「やさしい日本語ツーリズム研究会」 ウェブサイト
- ・『やさしい日本語』でつながるコミュニケーション・シート  
神奈川県立国際言語文化アカデミア
- ※ 神奈川県立国際言語文化アカデミアは令和3年3月末をもって廃止
- ・『やさしい日本語』の手引き 静岡県くらし・環境部県民生活局多文化共生課
- ・「使ってみよう『やさしい日本語』」 福岡市総務企画局国際部国際政策課
- ・「NEWS WEB EASY」 NHK ウェブサイト
- ・「地域で暮らす外国人と『やさしい日本語』で話してみましよう！」  
一般財団法人自治体国際化協会宮城県支部